

No.110
2012
Autumn

Hachinohe
Institute
of
Technology
Press
SOUKYU

蒼穹

学校法人八戸工業大学 広報

H. I. T. Communication



CONTENTS

八戸工業大学

- p2-3 工大祭・卓球部リーグ戦秋季初優勝・サンボ世界大会出場・ソーラーカーラリー・手作り自動車省燃費大会・就職懇談会
- p4-5 中国語研修・木匠塾・防犯ボランティア・学生デザイン作品・学生まちづくりコンペティション・国際会議研究発表・高校生のためのイベント・オープンキャンパス
- p6-7 学会/講演会・受賞者・保護者懇談会・同窓生の集う会・公開講座・教職員研修会・資格取得・教員免許状更新講習・入試日程・行事予定

- p8-9 **カラーページ**
みんないきいき さくらようちえん

八戸工業大学第一高等学校

- p10-11 小原日登美金メダル・女子レスリング全国準優勝・体育祭・iMac導入・ロータリークラブプラハ派遣・八戸工大生さわやか訪問・中学生体験入学・防災訓練

八戸工業大学第二高等学校

- p12-13 被災地住民に絵画寄贈・海外研修・インターンシップ・清掃奉仕活動・SC保護者懇談会・夜間自習室・中学生美術セミナー・仙台地区大学見学会・男子テニス部県3位

さくら幼稚園

- p14-15 なかよしさい・かたぐるま・ようちえんってこんなところ・園児募集・とらんぼりん
- p16 理事会報告・編集後記

工大祭

「歩み」

～ココカラノ・コレカラ～

10月6日・7日、第40回八戸工業大学学園祭「工大祭」が開催された。今年のテーマは、「歩み」。東日本大震災からの復興と本学創立40周年を踏まえ、新たな歴史を刻む起点となる学園祭にしたいという願いが込められた。

今年も例年通り、各学科の研究室の公開、文化部の活動紹介、運動部の模擬店、学友会が企画するプロによるライブステージをはじめ種々のイベントが催され、すがすがしい秋日和となった開催期間中多くの来場者で賑わった。また、学園祭を更に盛り上げようと、公開講座、第二高校1年生の大学見学会、地域企業による研究室めぐり、同窓生の集う会なども開催され、創立40周年という記念すべき今年の工大祭は、キャンパス中に笑い声があふれ、いつにも増して活気のある華やいだものとなった。



大活躍の卓球部 東北学生リーグ戦一部 “秋季初優勝”

8月28日～30日、花巻市総合体育館で開催された「平成24年度東北学生卓球連盟秋季リーグ戦一部」で、本学卓球部が強豪ぞろいの5大学を退け秋季リーグ初優勝に輝いた。

また、吉野裕規さん（バイオ環境工学科2年／北海道・北見柏陽高）が優秀選手賞を獲得。同時開催の「第79回全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）予選大会」では、ダブルス1組、シングルス3名が予選通過し、10月25日～28日に横浜文化体育館で開催される本戦出場の切符を手にした。

出場メンバーは、連盟推薦の

吉野さんのほか、本田翔悟さん（システム情報工学科4年／北海道・駒沢大附属苫小牧高）、松浦善幸さん（システム情報工学科2年／福島・小野高）、小館卓司さん（電気電子システム学科1年／青森・弘前工高）の3名。



87kg 級日本代表 世界サンボ選手権ユース&ジュニア

機械情報技術学科2年の小田桐隆介さん（宮城・東北高）が、8月6日に横浜市で開催された「2012年全日本サンボ選手権大会ジュニア&マスターズ（同時開催フレッシュマンの部）」に出場し、ジュニア男子87kg級で見事優勝。10月11日～15日、ブルガリア共和国のソフィア市で開催された「2012年世界サンボ選手権ユース&ジュニア」の日本代表メンバーに選ばれ、87kg級で国際大会へのデビューを果たした。



ソーラーカーの耐久レース チャレンジクラス第2位



7月29日～31日、土木建築工学科の佐々木幹夫教授率いる本学ソーラーカーのチームが、秋田県大潟村で開催された「2012ワールド・グリーン・チャレンジ・ソーラー&FCカー・ラリー」に出場し、ソーラーカー部門のチャレンジクラスで1周25kmの専用コースを30周し、第2位に輝いた。

このレースは、太陽光・水素など再生可能なエネルギー源で、専用コースを3日間約24時間かけて走行し、その周回数を競う耐久レース。今大会には太陽電池や燃料電池、両方を搭載したハイブリッド車の計17台が出走した。一昨年第2位だった本学チーム「H I - T E C H 8」は順調に周回を重ね、優勝をめざしたが及ばなかった。

◇チームの学生メンバー：五十嵐大斗（大学院電子電気・情報工学専攻／青森県出身）、市川達郎（大学院土木工学専攻／青森県出身）、川崎仁嗣（機械情報技術学科3年／岩手・種市高）、佐藤弘一（機械情報技術学科3年／秋田・御所野学院高）、小川成希（機械情報技術学科3年／岩手・釜石商工高）、鈴木悠介（機械情報技術学科3年／青森・八戸工大二高）

大学の部2年連続優勝 手作り自動車省燃費競技大会

9月1日、宮城県運転免許センターで開催された「第23回手作り自動車省燃費競技大会」に出場した動力研究部（部長：三上元也・機械情報技術学科3年／青森・青森工高）の手作り自動車「カブサイシン号」が、高専・大学の部で2年連続の優勝に輝いた。

この競技会は通称エコラン（Economy-Runの略）と呼ばれ、“1リットルのガソリンで何キロ走ることができるか”を競い合う大会。主にアルミニウム製のフレームに50ccバイク用エンジンを搭載し、規定時間内に周回路（633m/周）を20周し、1ℓ換算で一番長い距離を走行したマシンが優勝となる。

動力研究部は、今大会に優勝した「カブサイシン号」と「UMINECA号」の2台でエントリーしたが、残暑が厳しいこの時期はトラブルが発生しやすく、「UMINECA号」は17周目にエンジンストップでリタイア。「カブサイシン号」は順調に走行を続けて完走、295.40km/ℓの記録で2年連続の優勝となった。



第2回学生と企業との 就職懇談会開催



8月29日・30日の両日、本学教養棟の大会議室において平成24年度第2回「学生と企業との就職懇談会」（合同企業説明会）が開催されました。大学側の開会挨拶に続き、2013年3月卒業・修了の学生を対象に企業との2時間半に亘る懇談が行われました。この2日間で、青森から広島まで計69の企業・団体の参加を頂き、延べ128名の学生が企業の担当者から直接話を聞くことができました。

8月末に経団連ホールで行われたパネル討論会では、倫理憲章改定に伴う2カ月間の企業広報活動の短縮は、一部のマスコミ報道と違って大学や企業への影響はないとの意見が多く、また、その後の名刺交換会では震災復興の影響で急ぎょ求人を増やす企業も多いことが分かりました。7月末時点での学部の就職内定状況は昨年に比較して5ポイント程度は上昇しているものの、今後の追い込みにより学生全員が就職内定を勝ち取ることを切に願っています。学務部次長 竹内 貴弘（土木建築工学科教授）

中国語研修



8月15日～31日、学生5名が本学と学術交流を行っている瀋陽工業大学（遼寧省瀋陽市）で、語学研修を行った。引率は、中国語の教員で基礎教育研究センターの渡辺武秀教授。学生の一は八戸大学の学生。感性デザイン学科の岩崎真梨子助教も研修に同行した。学生らは同大学の寮に宿泊し、現地教員による中国語講座を受講して中

国語の上達を目指す一方、授業の合間に実施した名所旧跡や博物館などの見学を通して中国への理解を深め無事帰国した。

.....

システム情報工学科3年

柴山 勇樹（青森・六戸高）

今回の中国語研修には、特別な理由があって参加した訳ではありませんでしたが、今は参加できて良かったと自信を持って言えます。理由は三つあります。

一つ目は、現地の言葉に直接触れられたことです。最初の頃聞き取れなかった単語が、少しずつ聞こえるようになり、簡単な質問に答えられるようになったことです。二つ目は、日本のメディアが伝える情報と中国に行っ

感じた印象との違いが分かったことです。日本に戻ってから尖閣諸島のことをニュースで知りましたが、中国滞在中に危ない思いをしたことは一度もありませんでした。食事に行ったお店では、日本人だとわかると店員が丁寧に対応してくれましたし、中国の女子学生と話をした時は、日本の映画や小説を見たという話で盛り上がりました。福山雅治さんが好きだそうです。三つ目は、研修に参加したメンバーとの出会いです。自分の知らない中国の歴史を教えてもらったり、一緒に勉強したり、ふざけたり、卓球をしたり、短い間でしたが有意義だったこの経験を今後活かしていきたいと思っています。

「角館木匠塾」サマースクールに参加して



8月23日～29日、「角館木匠塾」サマースクール（秋田県大仙市）に参加し、今年の課題である階段作りに挑戦してきました。木匠塾は、大学生達に木に関する文化や技術を学ばせることを目的に開催されているもので、15回目の今回は本学と秋田県立大、東北工大、日本大の4つの大学から約50名が参加しました。

作業に入る前にどのような階段を作るか議論し、「これまで作ってきた作品のある一画を数年かけてグランドゴルフの観戦基地にする」案が採用されました。私は、今までにない新しいことをしたいと考えていましたが、さまざまな制約の中でどれだけのことができるか不安でした。当初具体的な作品の形がなかなか決められなかったため、コンペを行うことになりました。しかし、設置する場所の環境が変わっていたため、条件や土地の活用法なども考慮しなければならませんでした。今年の課題の作品作りは無事終了しましたが、実際にモノを作り上げることの難しさを痛感してきました。

土木建築工学科3年

沢田 篤宏（青森・南部工高）

大学生防犯ボランティアに指名

7月27日、本学で大学生防犯ボランティアの指名書交付式が行われ、青森県警生活安全企画課の其田頭一課長から交付式に出席した9名に指名書が手渡された。

警察庁が全国で展開しているこの活動は、大学生を中心とする若い世代による自主防犯活動の促進と定着化を目的とするもので、青森県内では青森、弘前地区に続き、本学の学生が新たに八戸地区で活動を開始する。今回指名されて活動に加わる本学のメンバーは

21名。今後警察署が行う各種犯罪抑止活動に参加するなど、若さと行動力で地域の防犯活動の活性化に取り組んでいく。



感性デザイン学科学生の活躍！

磯島ひかるさん

きものデザインコンクール「全国染織連合会会長賞」

全国染織連合会主催の「第16回 全国きものデザインコンクール」に応募した感性デザイン学科4年の磯島ひかるさん（青森・八戸東高）の作品が、全国からの応募作品6,053点の中から一般デジタルデザイン部門（コンピュータグラフィックス作品）で「全国染織連合会会長賞」を受賞した。

このコンクールは、自分が着たい「きもの」をイメージし、そのイメージを膨らませ自由な発想で感性を表現するコンクール。磯島さんの作品は、10月26日から28日まで京都府庁の入賞作品発表会で展示されたあと、全国4都市とパリ市で順次展示されることになっている。

沼口真貴子さん

「日本野生動物医学会」開催ポスターに採用

8月23日～26日まで、十和田市の北里大学獣医学部で開催された「第18回日本野生動物医学会」(日本野生動物医学会主催)の開催案内ポスターに、感性デザイン学科3年の沼口真貴子さん（青森・八戸工大二高）のデザインが採用され、講演要旨集の表紙とオリジナルコットンバック（カモシカのデザイン）にも使用された。



建築デザイン研究会の活動 学生まちづくりコンペティションに採択

私が所属している建築デザイン研究会の活動「防災デザインスクール」が、八戸市が公募した学生による地域振興を目的とする事業企画「学生まちづくりコンペティション」に昨年に引き続き採択されました。私達が取り組んでいる活動は、東日本大震災の被害調査と八戸市の小学生に向けた災害時安全点検マップの作成、ダンボールハウスの制作、震災絵本の制作などです。昨年の活動は、高く評価され市長賞をいただきました。



今年も引き続き安全点検マップ、ダンボールハウス、震災絵本の制作を行う計画です。昨年の安全点検マップは、津波の被害と被害地域の調査が主だったのに対し、今年は内陸部の地震被害と二次被害をメインにより詳細なマップ作りを目指します。ダンボールハウスは、昨年同様避難時に集会施設等で簡単に作れるものを実際に制作。震災絵本は、低学年も理解できるよう内容を見直すことにしています。

私達の活動が子ども達の防災意識を高め、小学校の防災教育に役立って欲しいと思っています。

土木建築工学科4年 橋場 ともみ（青森・八戸南高）

高校生のためのイベント盛況(8月～9月実施分)

- (1)8月1日～3日 サマーサイエンスプログラム (八戸工大二高)
- (2)8月2日～6日 高校生のためのエンジン解剖実習
- (3)8月6日～8日 三高スタディものづくり講座(三本木高)
- (4)8月9日 八北ラボインターンシップ (八戸北高)
高校生のための低圧電気講習
- (5)8月23日 チーズ作り (百石高)
- (6)9月4日～6日 インターンシップ (八戸工高・南部工高)
- (7)9月12日 オープンキャンパス (青森県高等学校教育研究会商業部会)
- (8)9月27日 インターンシップ (青森工高)



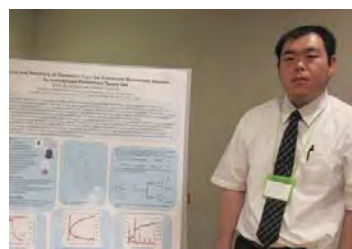
国際会議で研究発表

大学院博士前期課程機械・生物化学工学専攻

畑野 智信（青森県出身）

8月7日から3日間、広島市で開催された国際会議「The Pacific Rim Energy and Sustainability Congress 2012」(PRESCO 2012：環太平洋地域エネルギー持続可能性会議)に参加し、研究発表を行ってきました。会議では多くの講演やポスター発表が行われ、私はこれまでの実験結果をまとめた「Removal and recovery of chromium from the potassium bichromate solution by immobilized persimmon tannin gel」について、ポスター発表してきました。内容は、固定化した柿渋タンニン吸着剤として使用することで、人体に悪影響を及ぼす6価クロムを除去または資源として回収するための実験結果や考察をまとめたものです。国際会議に参加したのは今回が2回目でしたが、日本人研究者よりも外国人研究者からの質問が多くて結構苦戦しましたが、前回よりはうまく英語で答えられたと思っています。

今回の国際会議では、研究に関する交流を通していろいろ勉強になり、いい経験になりました。この経験を今後の研究のステップアップに繋げていきたいと思っています。



大盛況!!オープンキャンパス2012 “君の夢にH I T”



7月29日、8月4日、9月2日の3回にわたり「2012年夏のオープンキャンパス」が開催された。

今回は、企画・広報に加え当日の運営も学生が主体となって、イベントへの参加も入退場が自由なフリー形式にするなど、実施方法を大幅にリニューアルして行われた。参加者は、青森県内はもとより北海道や関東方面からも多数参加。昨年を大幅に上回る来場者数に、学生・教職員スタッフ一同にとっても実り多いオープンキャンパスとなった。

参加者のアンケートでは、「学生さんが担当だったので親しみやすく、楽しく見学できた」「学生さんから様々な話を聞くことができ八戸工大への興味が増した」など、学生の活躍が 높은評価を得ていた。



学会・講演会開催 (7月～9月)

◇第47回地盤工学研究発表会

日時：7月14日～16日／場所：八戸工業大学

◇防災技術社会システム研究センター第4回フォーラム

日時：8月10日／場所：八戸工業大学メディアセンター

◇国際地盤工学会副会長による学術講演会

日時：9月8日／場所：八戸工業大学メディアセンター

◇第36回静電気学会全国大会

日時：9月13日・14日／場所：八戸工業大学

エネルギー環境フォーラム in 八戸

9月11日、八戸グランドホテルを会場に、創立40周年記念事業の「エネルギー・環境フォーラム in 八戸」が開催され、青森県内のエネルギー・環境関連の企業から122名が参加した。

藤田成隆学長、佐々木郁夫青森県副知事の開会挨拶のあと、経済産業省東北経済産業局資源エネルギー環境部電源開発調整官の嵐田稔氏が「国のエネルギー政策について」、青森県エネルギー総合対策局エネルギー開発振興課長の濱館豊光氏が「青森県エネルギー産業振興戦略について」講演。続いて本学におけるエネルギー技術研究と環境技術研究について、野田英彦機械情報技術学科教授と高橋晋バイオ環境工学科准教授から、本学の防災技術について関秀廣学長補佐から報告があり、参加者らが熱心に聴講していた。

また、本学、八戸市、(独)日本原子力研究開発機構、八戸工業高等専門学校によるポスターセッションも催され、本学大学院生や4年生が参加して研鑽を積んでいた。



保護者懇談会



在学生の保護者を対象とした懇談会が、8月26日から9月2日まで、札幌市と東北の6都市で開催された。

8月26日の八戸会場では、初めに教員から保護者一人ひとりに単位取得状況や授業の出席状況等が報告され、続いて本学の概況が紹介された。終了後昼食懇談会が催され、和やかな雰囲気の中様々な話題に花を咲かせ、保護者同士の交流の輪が広がっていた。今年の八戸会場は、保護者の要望により本学を会場として実施し、普段の学生生活が垣間見れたと好評価をいただいた。

本学では、今後も学生の目線に立った教育活動を推し進め、更なる充実に努めて参ります。ご出席下さいました保護者の皆様に改めて感謝申し上げます。

第12回八戸工業大学同窓生の集う会

10月6日、第12回八戸工業大学同窓生の集う会が、八戸グランドホテルで開催され、同窓生と教職員を合わせ約130名が参加した。

今回の集う会は、第一部の座談会が大学の会議室を会場に催され、同窓教職員の会会長の浅利能之氏をコーディネーターに元教授の松坂知行氏と目修三氏、加賀拓也氏の3氏と同窓生代表の高橋和雄氏がパネラーとなって、「八戸工業大学と同窓会のこれまでとこれから」について、熱く意見を交わしあった。

終了後、ホテルに会場を移して第二部の懇親会が盛大に行われ、参加した同窓生たちは和やかに旧交を温めあっていた。



平成24年度支部活動

- ・北海道支部総会 7月7日／札幌市
- ・関東支部総会 9月8日／東京都
- ・東北支部総会 9月29日／仙台市
- ・北海道支部道南分会総会 9月29日／函館市
- ・秋田支部総会 10月20日／秋田市

受賞おめでとうございます

月館敏栄教授

「2012国際生土建築会議」

ベストポスター賞

土木建築工学科の月館敏栄教授が、スペインのバレンシア工科大学で開催された「2012 International Conference on Rammed Earth Conservation」(6月21日～23日)における「東日本大震災における生土(壁土)建築の被害状況」のプレゼンテーションが高く評価され、ベストポスター賞を受賞した。

浅利能之氏が文部科学大臣表彰

「平成24年度視聴覚教育・

情報教育功労者」

本学OBで前弘前工業高校校長の浅利能之氏が、多年にわたり社会教育における視聴覚教育の振興に努力し功績があったとして、文部科学大臣賞を受賞した。(現八戸工業大学入試部参与・昭和51年度電気工学科卒)

2012八戸工業大学公開講座

(11月以降の開催講座・詳細は大学HPに掲載)

◇第5回青森土木フォーラム

「災害とくらし-雪とくらしとまちづくり-」

a ポスター展

日時：11/10(土)～11日(日)

両日とも10:00～16:30

場所：青森市文化観光交流施設ねぶたの家ワ・ラッセ

b 講演会・パネルディスカッション

日時：11/10(土) 13:30～16:30

場所：青森県総合社会教育センター

◇感性的歌声2012

「あべさところりサイトル」

日時：11/30(金) 14:30～16:00

場所：八戸工業大学AVホール

◇環境中の身近な生物を調べよう

日時：12/1(土) 10:30～12:30

(10:00受付開始)

場所：八戸工業大学 バイオ環境工学科

◇親子で作るクリスマスオブジェ

日時：12/8(土) 14:00～16:30

場所：八戸工業大学 感性デザイン学科

◇環境中の身近な水を調べよう

日時：12/15(土) 13:30～15:30

(13:00受付開始)

場所：青森物産館アスパム

平成24年度教職員研修会

8月9日、学校法人八戸工業大学の全教職員を対象にした平成24年度の教職員研修会が、八戸工業大学の教養棟講義室で催された。

今年度は、本法人の監査を担当している「有限責任監査法人トーマツ」の水上航公認会計士を講師に迎え、「学校法人八戸工業大学の経営改善計画」をテーマに講演して頂いた。午前と午後の2回に分けて行われた研修には、柳谷利通理事長はじめ法人、大学、第一高校、第二高校、さくら幼稚園の教職員約250名が参加し、水上氏の講演に熱心に耳を傾け理解を深めた。

水上氏は、はじめに学校を取り巻く環境の変化について述

べ、続いて経営改善に必要な財務状況を分析した結果をグラフで示しながら、将来予測を踏まえた3種類のシミュレーションを提示し、教職員の行動変革を促進するための方策について解説された。

最後に質疑応答が行われ、参加した教職員らは課題を再認識し、改善に取り組んでいくための情報を共有する良い機会となった。



国家検定「2012年度前期技能検定試験」3級合格者

(機械情報技術学科)

◇機械加工 マシニングセンタ作業3級(1名) 永洞勇樹(3年/岩手・盛岡南高) ◇機械加工 普通旋盤作業3級(2名) 川崎仁嗣(3年/岩手・種市高)、名久井祐貴(3年/青森・八戸工大一高) ◇機械保全 機械系保全作業3級(39名) 【4年】久保雄一(青森・八戸工大一高) 【3年】石塚舟人(青森・八戸工大一高)、石山優樹(青森・八戸工大一高)、市川大洋(青森・八戸工大一高) 伊藤祐也(青森・黒石高)、大下真永(岩手・久慈東)、小田桐雅也(青森・弘前工高)、木村飛鳥(青森・青森商高)、古川大揮(青森・八戸工大一高)、小村亮介(青森・八戸工高)、佐々木紫門(青森・百石高)、佐々木隆昌(秋田・由利工高)、佐藤恭輔(青森・八戸工高)、杉本健太(青森・むつ工高)、高橋和嗣(青森・八戸工大一高)、田端佳祐(青森・八戸工大一高)、中野渡創平(青森・十和田工高)、中村一仁(青森・八戸工大一高)、沼畑孝明(青森・百石高)、日登宏尚(青森・八戸工大一高)、真野翔平(青森・弘前東高)、三浦高弘(青森・八戸工大一高) 【2年】石田裕(青森・弘前工高)、岡崎慎也(青森・弘前工高)、工藤大聖(青森・弘前工高)、久保陽拓(岩手・盛岡工高)、小泉安史(茨城・日立工高)、櫻田光(青森・三本木高)、佐々木優介(岩手・盛岡大附高)、佐藤功規(岩手・盛岡中央高)、佐藤大輝(青森・三戸高)、嶋森健太(青森・十和田工高)、千葉昂平(岩手・金ヶ崎高)、浪岡拓也(青森・八戸工大二高)、三浦進(青森・五戸高)、村中彰(青森・田子高) 【1年】杉本博樹(青森・八戸工大一高)、橋本拳三(青森・八戸工大一高)、前村祐貴(青森・八戸工大一高)

第15回2級リビングスタイリスト資格試験

7月1日、「第15回2級リビングスタイリスト資格試験」(一般社団法人日本ライフスタイル協会主催・本学会場)が行われ、学生7名が合格した。この試験は、住生活商品の販売現場で十分な活躍ができるよう、商品知識と販売技術を身に付けることを目的とした資格試験である。

【合格者】感性デザイン学科：一山瑞穂(2年/青森・八戸工大二高)、外館優(2年/青森・八戸工大二高)、家口果歩(1年/青森・八戸南高)、木村真人(1年/青森・八戸工大一高)、五戸桃代(1年/青森・八戸工大二高)、小松静穂(1年/青森・八戸工大二高) 土木建築工学科：柳町泰斗(3年/青森・南部工高)

教員免許状更新講習

本学では、文部科学大臣の認定を受け、現職教員等を対象とする教員免許状更新講習を実施しています。平成24年度は、11月10日・11日、18日に、選択領域の講習プログラム(教科指導・生徒指導その他教育の充実に関する事項)を対面授業形式で行います。

制度の概要、講習内容、受講申込等、詳細は本学ホームページをご覧ください。

平成25年度入試日程

工学部・感性デザイン学部

問合せ先 入試部入試課 0178-25-8000 (直通)

選抜方法	願書受付期間	試験日
指定校推薦入試	平成24年11月1日(木)～11月7日(水)	平成24年11月17日(土)
公募制推薦入試 (国公立大併願可)	前期	平成24年11月1日(木)～11月7日(水)
	後期	平成24年12月10日(月)～12月19日(水)
専門高校入試	平成25年1月4日(金)～1月23日(水)	平成25年2月5日(火)
一般入試	前期	平成25年1月4日(金)～1月23日(水)
	後期	平成25年3月1日(金)～3月13日(水)
センター利用入試	前期	平成25年1月4日(金)～2月1日(金)
	中期	平成25年2月12日(火)～2月22日(金)
	後期	平成25年3月1日(金)～3月15日(金)
AO入試	クール	エントリーカード受付期間
	第1クール	終了
	第2クール	平成24年11月19日(月)～11月30日(金)
	第3クール	平成25年2月4日(月)～2月13日(水)
	第4クール	平成25年3月1日(金)～3月6日(水)

11～1月 行事予定

11月

3日(土) 彩才祭(文化会主催) ～4日(日)

17日(土) 指定校推薦入試・公募制推薦入試前期

12月

8日(土) AO入試

13日(木) 第3回学生と企業との就職懇談会 ～14日(金)

21日(金) 冬季休業開始

26日(水) 公募制推薦入試後期

1月

10日(木) 冬季休業終了

19日(土) 大学入試センター試験 ～20日(日)

22日(火) 後期定期試験 ～29日(火)

28日(月) 編入・転入学試験(一般後期)

29日(火) 後期授業終了

みんないきいき
さくらようちえん

桜満開！
「やっほー!!」

風が気持ちいい～!

なかよしハウス大好き! カンパニー

裸足で砂遊び、何作る?

色水遊び
「水を入れてシェイク!シェイク!
色が変わったよ」

ビヨヨ～ン!
小麦粉粘土、楽し

幼年消防編入式「消防士さんになっちゃった!」

畑の野菜、
大きくな～れ!!

ロンドンオリンピック女子レスリング

小原日登美

金メダル 獲得



8月6日から12日まで、ロンドンオリンピックレスリング競技女子48kg級に出場した本校OBの小原日登美さん（平成10年度卒）が、念願の金メダルを獲得した。

今回のオリンピックには、本校から大館信也先生が派遣された。大館先生は本校のレスリング部の監督で、小原

選手とは同級生である。大館先生は、「小原選手はプレッシャーをはねのけ見事金メダルを獲得した。この金メダルまでの波乱万丈なレスリング人生を間近で見てきたので、言葉では言い表せないほど感動した。1回戦は、動きに硬さは見られたものの順当に勝ち上がった。準決勝で北京五輪金メダルの

カナダを破って決勝に進出し、決勝で宿敵アゼルバイジャンを逆転で破った。決勝での戦いぶりは、まさに彼女自身のレスリング人生の集大成とも言える内容で、見る者すべてに感動を与えてくれるものだった。」とメダル獲得の瞬間を振り返った。

女子レスリング

全国準優勝！



8月17日に福岡県で行われた平成24年度全国高校女子選手権において、普通科1年の木村遙陽さん（造道中）が、56kg級で準優勝という成績を収めた。木村さんは、肩の手術からの復帰戦。約10ヶ月ぶりの試合ということで、動きに硬さが見られたが、3試合を勝ち抜き決勝に進出した。決勝では至学館高校3年生のエース川井梨紗子さんに敗れたものの、1年生ながら大健闘した。今後は、10月に行われる全日本女子オープン選手権優勝に向け、体力アップと技術の向上を目標に掲げ日々練習に取り組んでいる。

第54回 体育祭

8月31日、第54回体育祭が「燃え上がれ！まだ見ぬ先の未来を信じて」のテーマのもと開催された。猛暑の中、熱戦が繰り広げられ、各軍とも特色のある力を発揮した。競技は、各学年の種目の結果に一喜一憂しながら進んでいった。特に恒例の種目、相撲では生徒たちは、我先に土俵際を陣取って声援を送り、一勝負ごとに歓声や笑いが沸き起こった。今年は、青軍（普通科）が白軍（機械コース）に大差をつけ、昨年の同点優勝に続き、2年連続の優勝となった。選手と応援する生徒たちが一体となり興奮に包まれながら競技は無事終了。熱い戦いの中にも礼に始まり礼に終わる、充実した体育祭となった。





新 iMac40台導入

本校にIT教育設備として、Apple社の新iMacパソコン40台が第1コンピュータ室に導入された。このパソコンは、最速CPUを搭載したオールインワンタイプで、魅力ある実習や教育が可能となる。これにより、高機能Windows7パソコン40台の第2コンピュータ室と、実習で組み立てた高性能Windowsパソコン40台の第3コンピュータ室と合わせ、全校生徒を対象に充実したIT教育が展開される。

八戸工大生さわやか訪問



7月4日、11日と9月26日の朝のホームルームに、本校卒業の八戸工業大学の学生による「学生さわやか訪問」を実施した。主な目的は、年齢的に近い学生から直接大学生活に関する情報などを得ることで、今後の進路選択に役立てることに生徒が学生に質問をすることによりコミュニケーション能力を高めることである。

学生達には、高校生活の思い出、大学生活の過ごし方、八戸工業大学の魅力などを中心に話してもらった。アンケート結果からは、ほとんどの生徒が大学の様子や学生生活を理解し、進学への意欲が増したようである。

ロータリークラブプラハ派遣

被災地の子どもたちを プラハへ

7月25日から8月8日まで、京都洛中ロータリークラブとプラハロータリークラブ主催の事業「被災地の子どもたちをプラハへ」に、本校から大志民剛杜君（普通科3年・湊中）が参加した。大志民君は、「今回の訪問団には、八戸市の高校生を中心に28名が参加しました。チェコで最も印象に残っ



たのは、子どもたちのキャンプに参加したこと。特に日本とはルールが異なるチェコ独特のドッチボールで子

どもたちと交流し、子どもたちの万国共通の笑顔と明るさに接することができました。私は、今回の訪問によって少し社交的になった気がします。さらに、チェコの歴史や文化に触れたり、建造物の見学を通して、他の国々にも興味を抱くようになりました。今後も積極的に国際交流の場に参加していきたいと思います。」と感想を述べた。

プチ高校生体験

中学3年生を対象とした体験入学が、8月17日・18日・20日・21日の4日間にわたって本校で開かれた。普通科の全体説明の後、約30名のグループに分かれて、工業科6コース（情報・電子通信・電気・機械・土木・建築）の体験学習を実施した。各コースとも25分という限られた時間だったが、参加した中学生達はものづくりの一端が体験できる実習に真剣に取り組んでいた。



八戸市総合防災訓練に参加



東日本大震災の教訓を活かし八戸市総合防災訓練兼第2回本校消防訓練が、9月2日に湊地区（館鼻公園、湊公民館）で実施され、本校の消防クラブ22名が参加した。本校生徒は、大津波が沿岸部を襲った約1年半前の「あの日」（3月11日）を思い出しながら、真剣な表情で避難誘導の補助やその記録などの訓練に取り組んだ。防災無線で津波警報を聞き、八戸市の館鼻公園の急な階段を登って避難する住民を生徒が補助したり、指定避難場所になっている体育館への誘導方法などを学んだ。

届け、被災地への思い ～美術コースが仮設住宅住民に絵画を寄贈～



7月22日、美術コースと生徒会役員の生徒ら22名が、陸前高田市の県立高田高校に建設された仮設住宅を訪れ、休日や放課後を利用して制作した絵画を住民に届けた。

水彩やパステルで描いた約170点の絵は、今年の2月から美術コースの生徒や卒業生が復興への願いを込めて描きためていたものだ。絵画をおさめるフレームの購入費や被災地ま



での交通費は、二高祭での収益金の一部を利用した。作品を展示した集会所には続々と住民が訪れ、1時間足らずでほとんどの作品が被災者の手に渡った。被災者の方々は「絵を飾るような余裕もなかった。絵を飾れば部屋も華やかになる」と喜んで下さり、生徒達は充実感、達成感に笑顔を見せていた。

行ってきました！ 海外研修

東日本高校生訪中代表団
中国 北京 西安 上海

8月2日～6日、中国政府と日中友好会館の共同主催による東日本高校生訪中事業が開催され、本校から19名の生徒が参加した。

この事業は東日本大震災で大きな被害を受けた地域の高校生を中国側が招待するという形で行われたもので、単なる観光、視察プログラムではなく、お互いの国に同じ世代の友人をつくることが目的。参加した生徒たちは「言葉が通じなくてもわかり合えたし、思いやりが大切だと感じた」「教科書に出てくる景色や遺産を直に見て感動した」などの感想を述べていた。



国際ロータリー主催「心の癒し事業」チェコプラハ



京都洛中ロータリークラブとその姉妹クラブであるチェコ共和国プラハロータリークラブによる被災地支援事業の一環で、7月25日から8月8日まで、被災地の高校生たちをプラハへ派遣する「心の癒し事業」が実施された。本校からは2名の生徒が参加し、ホームステイやサマーキャンプ参加を通じて交流を深めた。文化や生活様式が全く異なる東欧での体験は、二人にとって貴重な体験となったようで、また必ずチェコに行きたいと目を輝かせていた。

2 学年

8月1日から3日の3日間、2学年生徒16名がインターンシップに参加した。協力して頂いた事業所は、デコール洋菓子店本店、グッジョブ妙光園、(株)第一ホーム、パセリー業（八戸支店・ユニバース小中野店・よこまち新井田店）の6事業所。この企画は働くことの厳しさや成就感を体得させ、自らが持っている企業観・社会観などを、より一層現実味を帯びたものとするのが目的。猛暑の中だったが、生徒達は積極的に参加し、窓口業務・商品の製造など、真剣に仕事に取り組んでいた。



夏休みのインターンシップ

1 学年

8月1、2日の2日間、1学年情報ビジネスコース生全員で陸上自衛隊八戸駐屯地での体験入隊を行い、施設・装備品見学、基本教練を体験した。基本教練では整列や行進のしかた、敬礼を学び、装備品見学では、各種ヘリコプターを見学し実際の搭乗も体験した。また、自動小銃、防弾チョッキ、暗視スコープの装着も行い、貴重な経験となった。自衛隊の規律と安全、堅実を重視した現場を学んだことが良い刺激になったようである。





9月1日、情報ビジネスコースの1、2年生82名が、清掃奉仕活動を行った。情報ビジネスコースは、八戸市が実施している環境美化プログラムの一環である「クリーンパートナー事業」に参加している。今年度2回目となる今回の清掃活動は、学校周辺の市道と国道45号線沿いを中心に実施した。残暑厳しい中だったが、生徒達は丁寧にゴミを拾い、終了後ゴミでいっぱいになった袋を笑顔で見せ合っていた。

夜間自習室開設

生徒の学習習慣の定着と学力伸長を目的に、夜間自習室が開設された。この自習室を利用できる時間は、部活動終了後の19時から19時50分までの50分間。9月からすでに12名が利用し、教員が常駐する冷暖房完備の教室で学習に励んでいる。決して長い時間ではないが今後利用者を増やし、この50分をきっかけに生徒に学習習慣が身に付くよう指導していきたい。



仙台地区大学見学会

7月30日、31日、仙台地区大学見学会が実施された。今回は、1年生のSCクラス全員と2年生のSCクラスとカレッジクラスの希望者計50名が参加した。

1日目は、仙台市内にある四つの私立大学（東北薬科大学・東北文化学園大学・宮城学院女子大学・東北福祉大学）の中から各自の志望にあうキャンパスを選択して、各大学の入試に関する説明を受けたり、模擬講義を見学した。2日目は、東北大学のオープンキャンパスに参加した。体験した大学の中には、高校とは全く異なる広く先進的なキャンパスもあり、生徒達は初めての経験に目を輝かせていた。



第一回SC保護者懇談会開催



8月24日、八戸プラザホテルにおいてスーパーカレッジクラス保護者懇談会を開催し、1年生から3年生までの保護者37名が参加した。

この懇談会は二部構成となっており、第一部は3年生の進路達成に向けた取り組み、1、2年生の現状分析、7月の進研模試の結果分析、スーパーカレッジの独自行事である階上岳登山&強歩の説明が行われた。第二部は懇談会で、生徒一人ひとりの状況について情報交換を行い、参加した保護者の方々から忌憚のない意見を伺うことができた。

中学生美術セミナー開催

9月29日、八戸ショッピングセンター「ラピアホール」を会場に中学生美術セミナーを開催し、中学1年から3年まで合計59名が参加した。今回は、パステルを用いた自画像のデッサンやアクリル絵具による静物画の制作に取り組んだ。参加した中学生達は、本校教員から適切な指導を受け画力向上への手応えを感じていたようだ。

このセミナーは1年生から参加が可能なため、続けて参加している者も多く毎回好評を博している。



速報!

男子テニス部 団体第3位



9月14日～17日、岩木山総合運動公園テニスコートで開催された平成24年度青森県高校新人テニス大会において、本校の男子団体チームが第3位に輝いた。惜しくも東北大会への出場は逃したものの、個人戦で上田竣君（カレッジコース2年・大館中）がベスト8に入り、来年度の県春季大会のシード権を獲得した。女子は、ダブルスで岩崎志帆さん（カレッジコース2年・百石中）と大津智枝さん（カレッジコース1年・八戸東中）のペアがベスト16に入った。大津さんは、8月に行われた八戸市ジュニアテニス選手権大会16歳以下女子シングルスで優勝しており、将来に期待がかかる選手である。

なかよしさい

綿あめだよ。
はい、どうぞ。

頑張れ！もう一つ！

あの水ヨーヨーがいいなあ。

うさぎさんも一緒にあそぼ。

おじいちゃん、
一生懸命作ったんだよ！

9月29日、子どもたちはもちろんのこと卒園児も楽しみにしている「なかよし祭」が開催された。

この日に向け子どもたちは、展示する絵やデザイン画の製作に一生懸命取り組んできた。当日の作品の展示コーナーの前は、褒められて照れている子や自慢気な子など様々だった。園内には、豚汁・綿あめ・水ヨーヨー・お面・シャボン玉・ゲームのコーナーが準備され、皆思い思いに楽しんでいた。帰りにお土産をもらって、にっこり。準備から片づけまでの長い一日の疲れも、たくさんの笑顔に会えてどこかに吹っ飛んでいった。これも役員はじめ保護者の皆様、ボランティアで参加してくれる八戸工大吹奏楽部の学生さんたちの協力があってこそと深く感謝している。

かたぐるま

孫の成長を楽しみに

孫の入園を前に30年振りにさくら幼稚園を訪ねました。出迎えて下さったのは、園長先生とこの春亡くなられた教頭先生でした。お二人には子ども3人が大変お世話になりました。お二人に会って、手放しで孫をお願いすることになり入園させて頂きました。入園当初、孫は、高い所や動く物が苦手でしたが、今ではびっくりするほど活発になり、ほとんど休むことなく登園しています。家に持ち帰ってくる作品を見る

と、楽しく過ごしている様子が伝わってきます。友達に手紙を書いている姿をみると、この先どんな風に成長していくのだろうと嬉しくなります。なかよし祭も裸足での運動会も楽しい行事です。昨年度は創立40周年、伝統ある教育方針と先生方の温かい心配りの賜物と心より感謝しています。事件、事故の多い昨今、孫だけでなくすべての子どもたちが健やかに育って欲しいと願っています。(もも組 岡田真穂ちゃんのおばあさん) 岡田 恵美子さん



岡田 恵美子さん

ようちえんってこんなところ

「バンザイ!!割れたあ〜」

年長・サマーフェスタ



「花火、きれいだね。」

巧技台遊び



「上手に渡れるようになったよ」



すいかわり大会

園児募集

満3歳児
3歳児
4歳児
5歳児

願書受付(定員になり次第締め切り)
11月1日より

- 完全給食
- 通園バスあり
- 預かり保育あり



とらんぽりん

～ある日の保育日誌～

満3歳いちご組
9月10日◎

スタンピング(絵の具遊び)の準備をしていると近づいてきて、「これ・・なにをするの?」としきりに聞いてくる。



「砂遊び たのしいな」

「順番に名前を呼ぶから遊んで待っていてね」と言うと、一旦は遊びに向かうが、気になって仕方がないようで「いつやるの?」「私はまだ?」と、何度も聞きにくる。今日は少し待っていることができたが、その時の気分でやらない時もあるので、褒めながら成長するのを見守っていきたい。

年少組 8月28日◎

昨日はスイカの絵本を読み聞かせ、子どもたちは今日のスイカ割り大会を楽しみにしていた。「今日はスイカを食べるんでしょう?」「お外に行くの?」「どうやって食べるの?」と、次々に質問してくる。スイカを割る棒が重くてうまく持てない子もいたが、手を添えてやり全員楽しく参加することができた。朝から機嫌が悪くぐずっていた子も、お手伝いをしてもらっているうちに表情が明るくなり、スイカに棒が命中すると照れながらも嬉しそうだった。

年中組 9月6日◎

「雨が降っていないから外へ行けるよね」「いついくの?」と、子どもたちは朝から楽しみにしていた。最近購入した砂場の遊具に夢中だ。「なんで新しくなったんだろう?」「わあー、これもだよ!」と目を輝かせ、いつも以上に盛り上がっていた。今日は、穴を掘る係、水を運ぶ係、指示を出す係など役割分担をして、温泉作りに熱中していた。互いに意見を出し合いながら遊びを展開させている。そんな生き生きとした子どもたちの姿を見て、外遊びの時間もより大切にしなければと思った。

年長組 8月23日◎

今日は、子どもたちが楽しみにしていたじゃが芋掘り。気温が高く、子どもたちの体調の変化に注意しながら行った。初めは土に触れて「軍手が汚れた」と気にしていた子も、じゃが芋を見つけると、「あーっ!見て見て!」と大きな声で周りの友達に知らせ、夢中になって掘っていた。顔もスモックも帽子も土まみれになっているのを気にもせず、嬉しそうにじゃが芋を掘る子どもたち



「ぼく、わんぱくだんシリーズ
好きなんだ〜」

の姿に、自然に触れる経験ができてよかったと改めて思った。夕食はカレーライス?それとも・・・。



理事会

学校法人八戸工業大学は、下記の通り理事会を開催して各案件について審議を行い、それぞれ原案通り承認された。

◇7月20日

・「東日本大震災被災学生等に係る学費減免特別支援規程」制定に関する件

◇9月21日

・「東日本大震災被災学生等に係る学費減免特別支援規程施行細則」制定に関する件

◇10月19日

・学校法人八戸工業大学「経費削減策」に関する件

編集後記

猛暑が続いた今年の夏。この夏はロンドンで開催されたオリンピックで、日本の選手達がメダル獲得をめざして熱戦を繰り広げ、列島は更に熱い熱い夏になった。

今回のオリンピックには、八戸工大一高出身の小原日登美さんが、世界最強の日本女子レスリングの一員として31歳で初出場を果たし、48kg 級で日本人初となる金メダルを獲得した。

八戸市生まれの小原さんは、高校卒業後中京女子大学（現・至学館大学）に進学して才能を開花させ、世界選手権大会の51kg級で6度、48kg級で2度チャンピオンに輝いた無敗の世界チャンピオンだった。しかしながら不運が重なってアテネオリンピックにも北京オリンピックにも出場が叶わず、今回のオリンピック出場は2度の引退から復帰し数々の困難を乗り越えて勝ち取った金メダル。帰国後メダリストの一人として多くのテレビ番組に出演し、インタビューに答えていた小原さんの嬉しそうな笑顔が目につく。

小原さんは旧姓を坂本といい、高校時代から本誌にも彼女の活躍ぶりが紹介されている。地元市民に大きな感動を与えてくれた小原さんは、オリンピックを最後に自身の競技生活にピリオドを打ち、今後は後進の指導にあたるという。小原さんの夢をあきらめない不屈の精神は、母校の後輩たちにしっかりと受け継がれていくことだろう。

表紙：ロンドンオリンピックレスリング競技小原日登美選手金メダル獲得祝勝会
 裏表紙：さくら幼稚園 年長組 沢田新太郎くんの作品 タイトル「ぼくのりゅう」